

## 家庭学習指導

## 1. 家庭学習指導の有無と時間

【家庭学習指導をする先生は約7割であった。担任学年別には、2年生が7割強、入学初年度の1年生と3年生が8割近くになっている。学習するように指導する時間は、1時間以内が28.6%、これに2時間までを加えた累計は84.8%になる。中学生の家庭学習指導の時間

はだいたい2時間までである。

担任学年別には、学年が上がるほど長い時間学習するよう指導している。1年生で1時間までが43.5%と4割強いたのが、2年生では30.0%と3割、3年生では19.4%と2割弱まで減っている。】

Q5. 宿題や家庭学習についてうかがいます。

B. あなたは、受け持ちの生徒に対して家庭での学習時間の指導をしていますか。

SQ. Bで、はいと答えた方のみにかがいます。ふだん何時間程度学習するように指導していますか。

まず、図2-4で全体をみると、家庭学習指導をする先生は70.7%と約7割であった。ホームルームの担任学年別にやや差があり、2年生が72.2%と7割強とやや少なく、入学初年度の1年生が78.3%、入試を控えた3年生が79.8%と8割弱になっている。

次に、図2-5で、学習するように指導する時間をみてみよう。全体では、30分が5.2%、1時間が23.4%で、合わせて1時間以内が28.6%である。さらに、1時間半が13.8%、

そして2時間をもっとも多く42.4%で、2時間までの累計は84.8%になる。中学生の家庭学習指導の時間はだいたい2時間までである。

同じ図で、担任学年別にみると、1日あたりの家庭学習指導時間は、1年生を担当している先生がもっとも短い。1時間以内でよいとする割合は(30分と1時間を合計して)、3年生が19.4%、2年生が30.0%であるのに対して、1年生では43.5%となっている。



図2-4 生徒に家庭学習の時間を指導するか(学年別)

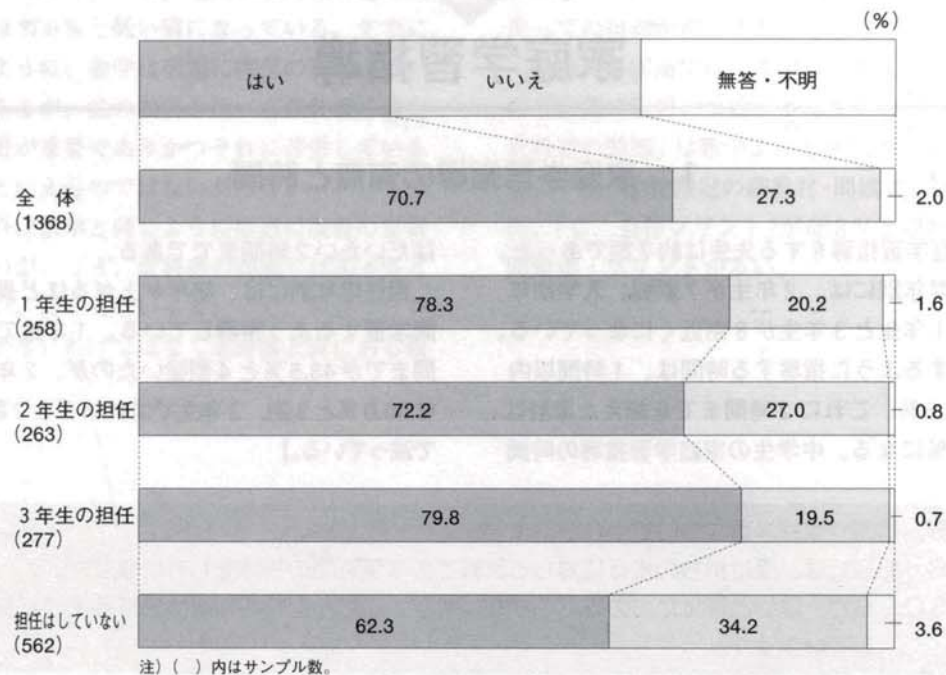
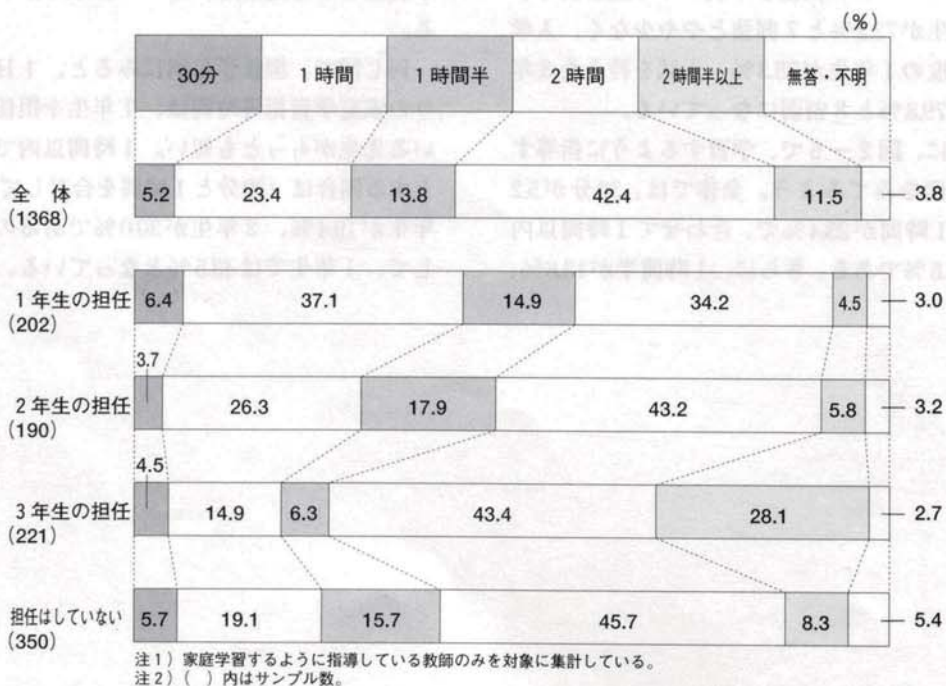


図2-5 学習するように指導する時間(学年別)



## 2. 家庭学習指導の内容

【家庭学習指導では、「A. 教科の基礎・基本に関わる学習」がもっとも多く指導されている。「よくしている」「まあしている」を合わせると9割を超える。「B. 定期試験のための学習」も8割強に達している。これらに対

して、「C. 高校入試のための学習」は6割、「D. 読書や調べる学習など、新学力観に関わる学習」は5割強である。また、担当教科ごとに家庭学習指導の内容に違いがあった。】

Q5. 宿題や家庭学習についてうかがいます。

C. あなたは生徒に対して、家庭でどのような内容の学習をするように指導していますか。1)~4)のそれぞれについて当てはまる番号に○をつけてください。

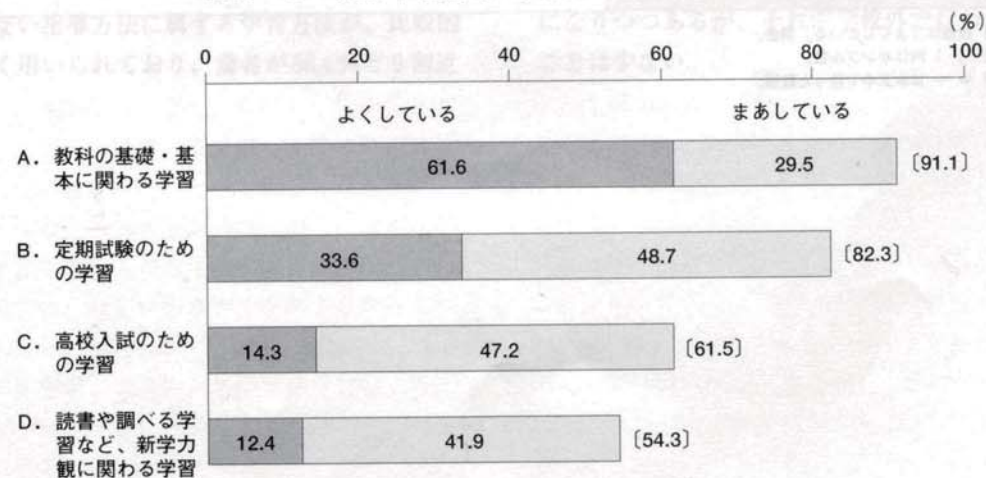
家庭学習指導の内容をみると(図2-6)、「A. 教科の基礎・基本に関わる学習」がもっとも多く指導されている。61.6%が「よくしている」。これに「まあしている」の29.5%を合わせると91.1%と9割を超える。家庭学習指導では基礎・基本志向が強いことがわかる。「B. 定期試験のための学習」も82.3%と8割強に達している。しかし、「C. 高校入試のための学習」は、「よくしている」「まあしている」を合わせて61.5%と少ない。高校入試対策よりも定期試験対策を多くしていることがわかる。なお、「D. 読書や調べ

る学習など、新学力観に関わる学習」も54.3%と少ない。入試や新学力観に関わる学習についての指導はともに少ない。

次に、担当教科ごとに家庭学習指導の内容の違いをみてみよう(表2-6)。なお、表2-6は「よくしている」の割合(%)を示している。

国語では、「B. 定期試験のための学習」が42.6%、「C. 高校入試のための学習」が16.2%と試験と結びついた指導が他の教科よりも多くなっている。また、「D. 読書や調べる学習など、新学力観に関する学習」が20.3

図2-6 家庭学習指導の内容



注1) [ ] 内の数値は「よくしている」と「まあしている」の合計。  
注2) サンプル数は1368人。



%とこれも他の教科よりも多くなっている。  
 社会では、「B. 定期試験のための学習」が38.5%、「D. 読書や調べる学習など、新学力観に関する学習」が15.4%と多くなっている。  
 「A. 教科の基礎・基本に関わる学習」は52.7%と少なく、もっとも多い数学より20%も少なくなっている。これらの数字は、社会の場合はまさに“社会”についての学習であり、自分で調べることが重要であること、そして基礎・基本は授業中に学習することが可能であることなどを反映していると思われる。  
 数学では、「A. 教科の基礎・基本に関わる学習」の割合がもっとも多く72.7%。反対に、「D. 読書や調べる学習など、新学力観に関する学習」はもっとも少なく4.8%。数学は基礎

・基本の繰り返しが重要であること、および、後述のように新学力観に関連する要素があまり授業に取り入れられていないことが、こうした数字の背景にある。

理科は、家庭学習指導の内容にあまり特徴がみられない。わずかに、「B. 定期試験のための学習」が多いことが目立つ。

最後に外国語では、「A. 教科の基礎・基本に関わる学習」の割合が68.9%と数学に次いで高くなっている。数学同様に基礎・基本の繰り返しが重要となっている。なお、数学と外国語は、どちらも宿題の頻度が高い科目であった。

表2-6 家庭学習指導の内容(教科別)

(%)

	国語 (197)	社会 (169)	数学 (187)	理科 (192)	外国語 (193)	その他 (316)	全体 (1368)
A. 教科の基礎・基本に関わる学習	66.5	52.7	72.7	58.9	68.9	52.5	61.6
B. 定期試験のための学習	42.6	38.5	32.6	37.5	31.6	25.0	33.6
C. 高校入試のための学習	16.2	14.8	17.1	14.1	12.4	9.2	14.3
D. 読書や調べる学習など、新学力観に関する学習	20.3	15.4	4.8	9.4	6.7	15.8	12.4

注1) 数値は「よくしている」割合。  
 注2) ( )内はサンプル数。  
 注3) = は本文中で扱った数値。